

# 緊急 トップインタビュー

インターサポート（仙台市）

代表取締役社長 浦沢 みよこさん（53）

新型コロナ禍での業況や対策を聞くシリーズ。今回は、創業から24年間で宮城県内を中心に6000人以上に海外への「翼」を提供してきた留学支援会社「インターサポート」（仙台市）の代表取締役社長、浦沢みよこさん（53）です。



—影響は。

3月以降は出国が途絶え、帰国予定のお客さまの入国も一時難しい事態になるなど、肝を冷やしました。留学先の選定やホームステイ先の確保、飛行機の手配などを生業とする弊社にとって「渡航禁止・自粛」の影響は深刻で、しばらく閉店休業になりました。

—その間、どんなことを。

オンラインで海外とつながり、留学の魅力を感じてもらおうイベントを7月中旬に始めました。志望者の関心をつなぎ留める窮余の策でしたが、結果的により多くの人に興味を持ってもら

## 留学へのハードル下がる



いました。私見ですが、このコロナ禍で「どこでもドアが開いた」と感じています。海外を含めオンラインで誰かとおつながることが当たり前になった結果、例えば留学前にホストファミリーと交流し、安心して渡航できる環境になったからです。留学に対するハードルはもっと下がると思います。

—留学生の受け入れを再開したところもあります。

新型コロナウイルス

ともに  
乗り越えよう

8月下旬以降、ドバイやマルタ、台湾などが少しずつ扉を開け始めています。入国後2週間の待機を強いられ、長期留学が前提になりますが、ワクチンが普及するまではこれが留学のニューノーマルでしょう。

—見通しは。

学校のオンライン授業一つとっても、日本のITの遅れが浮き彫りになりました。そうした点で海外に目を向ける人が増えると期待され、私たちはその「翼」になり続けたいと思っています。

### information

オンラインイベントの予定は同社のホームページで確かめられる。問い合わせなど詳しくは、右のQRコードから。



企画・制作／河北新報社営業局